



## 背景

- 2015年国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)は、2030年までの国際目標。先進国・途上国を問わず全ての国に適用され、我が国は、気候変動、エネルギー、持続可能な消費と生産等の分野を中心にアジェンダの実施に貢献する意向。
- 経済活動の主体であるステークホルダーの積極的なSDGsの取組を加速させるためには、事例発掘と、好事例の共有が必要。
- 日本の多くの企業は、SDGsに資する先進的な取組を行っているが、SDGsの理解が不十分なことに加え、発信が限定的なため、国際的な認知度が低い。(特に、中小企業では、SDGsを理解し、アピールするにはサポートが必要。)
- 我が国の各主体による先進的な取組を国際的に発信していくことが必要。

## 事業内容

### ①SDGsステークホルダーズミーティングの開催

SDGsに関する先進的な取組を相互に認め合い、更なる取組に弾みをつける場、SDGsの実施検討中の主体が自身の活動の展開について能動的に考える場、多様なセクターの協働を促進していく場として、ステークホルダーズミーティングを開催する。

ステークホルダーズ・ミーティングでは、大企業に加えて、中小企業にも着目したSDGsの先進的な取組の発掘及び評価を行うとともに、海外の取組事例や潮流についてもインプットする場とする。

更にここで共有された優良事例を積極的に海外発信することで、国内のSDGsへの関心を高め、実質的に国内の取組を推進するとともに、海外においてSDGs先進国として、日本の評価を高める。

### ②G7が牽引するCO2削減に貢献する持続可能な開発目標の実施

日本とG7各国との二国または複数国での共催とし、相互に関心が高いSDGs分野について国や企業による具体的な取組の事例共有や、取組を推進するための政策手法についても事例共有、検討を行う。



## 期待される効果

- ステークホルダー間で好事例を共有することにより、国内でのSDGsの取組を加速。
- ESG投資家によるSDGs取組への投資の加速。
- 先進的な取組を国際的に発信することにより、日本のSDGsに関するプレゼンス向上。